

沖縄本島南部の遺骨を辺野古の海に沈めてはなりません

第 63 回国会前 19 日行動での報告アピール

金性済<キム・ソング>

(日本キリスト教協議会 総幹事／平和をつくり出す宗教者ネット)

2021 年 2 月 19 日 於 国会議員会館前

昨年 11 月に私ども宗教者平和ネットのメンバー（日本山妙法寺僧侶）は、38 年以上も戦没者の遺骨収集に携わってこられたガマフヤー、具志堅隆松さんと沖縄で出会い、沖縄本島南部の遺骨を含む土砂が辺野古新基地建設のために採取されようとしている問題を知ることとなりました。東京に戻ったメンバーからその報告を受け、私たちは改めて宗教者としてその事態の深刻さを認識して、12 月 10 日に宗教者共同声明文を発表いたしました。そして、それに対する賛同署名が、本日までに 7,191 筆となり、83 団体から賛同をいただいています。

沖縄戦の歴史は未だ終わっていません。

その理由は、未だに数限りない戦没者の遺骨が沖縄南部の地に収集されずに残っているからです。国は、2016 年 3 月 29 日に、「戦没者遺骨収集推進法」を制定しました。その法の第 3 条に、「戦没者の遺骨収集の推進に関する施策を総合的に策定し、及び確実に実施する」とし、遺骨収集を「国の責務」と謳っています。さらにその法は、2024 年までを、その計画を集中的に実施する期間と明記しています。しかし今、菅政権はこの法律の定め逆行する政策を推し進めているのです。

日本政府は安倍政権時代、軟弱地盤の辺野古の海の埋め立て工事を推し進めるために、沖縄県に対し、「設計変更承認申請」を、沖縄防衛局の名で昨年 4 月 21 日にしました。その直前の 4 月 7 日に安倍政権は、緊急事態宣言を発出しておきながら、そのどさくさにまぎれて、辺野古埋め立て計画を推し進めようとしたのです。その設計変更計画書では、土砂採取の大半の調達先として糸満市、八重瀬町をはじめ、現在、戦跡国定公園と指定されている沖縄本島南部の地域が、つまり、まだ数多くの戦没者の未収集の遺骨の眠る場所が記されていたのです。

採石業者は、昨年 9 月より沖縄県への届出なしに、「岩ずり」、つまり土砂採取を開始しました。それは、知事への届け出を義務付ける自然公園法違反であり、森林伐採の市への届け出を義務付ける森林法違反であり、農地をダンプカーの進入路にすることを禁じる農地法違反であったため、沖縄県は、昨年 11 月 10 日に、業者に中止を指示したので、現在、土砂採取工事は中断状態となっています。しかし、私たち東京の宗教者と沖縄の宗教者の代表がた、市民運動家がたが具志堅さんと共に沖縄県庁を、昨年 12 月に、そして今年先日 2 月 15 日に訪ね、交渉したところ、沖縄県は、防衛相と沖縄防衛局の計画の圧力のもと、業者の届出に問題がなければ、受理しようとする方針をにおわせています。

自然公園法第 33 条 2 項には、業者による土砂採取が国定公園の景観を壊すような事態になるなら、県知事は、工事の中止命令を出せると規定されているのです。具志堅さんと宗教家、そして市民運動は、今現地において、玉城デニー知事が遺骨収集現場を訪問して、遺骨未収集の実態を確認し、工事の中止命令を出すように、訴え続けているのです。そのことを、いのちと体を張って訴えんとする具志堅さんは、東京に戻ろうとする私ども宗教者に、3 月 1 日より 6 日まで、沖縄県庁前で断

食を始めたいと決意を打ち明けてくださいました。

具志堅さんが訴える通り、沖縄本島南部の土地は、日本兵と共に、多くの沖縄島民の遺骨が眠るのみならず、その貴い血のしみ込んだ場所として遺骨収集後でさえ土砂採取を許してはならず、これからも悲惨な戦争を、悔いる心をもって思い起こし、二度と戦争をしてはならないと平和を祈念する聖地としての戦跡国定公園として守られて行かなければなりません。

このような沖縄と本土の私たちの思いと志を踏みにじり、制定した遺骨収集推進法を政府自らが破り、ひたすら辺野古新基地建設のために、人間と死者の尊厳を冒とくするような国は一体、どれほどの精神的な頽廃を、この国に生まれ育つこれからの世代にもたらすことになるのでしょうか。そのことを顧みない菅政権、防衛省の暴挙を、私たちは決して許してはならないのです。

ガマの中で腹ばいになりながら、幼い子どもの指先の遺骨一つでも拾い上げようとする具志堅隆松さんの闘いに思いを馳せながら、この度の沖縄本島南部の遺骨問題を、私たち人間の、自分自身の生と死の尊厳を国家権力の暴力から守るたたかいとして私たちは共に連帯し、この叫びを全国津々浦々にまで広げていきましょう。

私たち宗教者は、市民と共に来る3月2日午後2時から3時にかけて、具志堅さんの沖縄県庁前での断食行動に連帯し、国会議員会館前にて集会を持ちます。どうか、ぜひ皆さまの多数のご参加を宜しくお願いいたします。また現在、演壇前にて署名用紙を配布しておりますので、ぜひ署名にご協力ください！***